

一刻も早く人質3人の解放を

自衛隊はただちに撤退を!!

イラク全土が戦闘地域



占領への協力のために 日本人の命を犠牲にするな!!

“イラクの平和に必要なものは何なのか” 日本共産党市議団が国民的な討論を訴え

イラクで日本人3人が拘束された問題で、日本共産党広島市議団は10日、中区・叶屋前で街頭宣伝し、「政府は、人命を犠牲にする行動をとってはならない。イラク全土が戦闘地域となった今、自衛隊は撤退するしかない」と強調。「イラクを危険な状況に追い込んでいるアメリカ主導の占領支配に加担し続けているのでしょうか。イラクの平和のために本当に必要なことは何なのか、すべての国民が考える時です」と聴衆に訴えました。

孤立するアメリカ…派遣国の相次ぐ撤退表明

「戦闘行為があれば撤退」

石破防衛庁長官も言明

現在のイラク情勢は、イラク国民全体が米英軍主導の軍事占領支配に抵抗の動きを強め、占領軍がこの動きに武力弾圧を加え、イラク全土にわたって戦闘が広がるきわめて緊迫した状況となっています。

7日には、陸上自衛隊の宿营地近くに3発の砲弾が初めて撃ち込まれ、その後もサマワ市内では連日、砲撃事件が発生。外国軍の撤退などを叫ぶシーア派のデモも起こっています。

政府はこれまで、「非戦闘地域なんかどこにもないということであれば、撤退ということもございましょう」（石破茂防衛庁長官、2月9日、参院イラク有事特別委員会）と説明してきました。その言葉に照らしても、政府が自衛隊派兵に固執する口実は大もとから崩れています。

政府がくりかえしてきた

「戦闘地域には派遣しない」

人道支援に携わるNGO（非政府組織）代表や専門家は、「自衛隊がイラクに行けば、民間人に危険が迫る」とくりかえし警告してきました。しかし、政府は、「戦闘地域には派遣しない」とイラク派兵を強行しました。

今、政府がやるべきは、派兵に固執せず、人命を最優先にただちに自衛隊を撤退することです。

就職問題、中高生の居場所づくりなど

青年が市長と意見交流

青年ら「市政の問題、考える参考になった」

秋葉市長と青年たちとの対話集会「秋葉市長を囲んでレッツ・トーク」が5日に市内で開かれ、

青年約60人が参加しました。

青年たちの代表7人が、①中高生の居場所づくり、②学生の就職問題、③病院の相談業務にかかわって、④医療機関の充実を、⑤待機児解消のための「定員超過」は保育を悪化させる、⑥ひとり暮らしは「はじめての一步」、⑦青

年がいきいき暮らすために―をテーマに発言しました。

市長は個人の見解として、それぞれの意見に丁寧に回答し、単身者向けの市営住宅の確保や中高生の居場所として公民館の有効活用などについて、「ぜひ積極的に考えていきたい」と述べました。

また、「若い人たちのエネルギーでもっと行動してほしい。市長としての責任を果たしつつ、ともに頑張っていきたい」と励ましました。

青年たちは、「市長の意見がきけて良かった」（高校生）、「まだ物足りない感もあるが、青年の実態が伝えられたのは良かった。時間があれば国の根本問題まで踏み込んで議論したかった」（社会人）、「市長は紳士的に受け止めてくれた。市政のことがわかり、その上で何を考えていけばいいのか参考になった。すごく学べた」（大学院生）と話していました。

この会は、民青同盟県委員会（大平喜信委員長）、県労連青年部（木下克己部長）、県労学協ヤングセミナーなどでつくる同「トーク」実行委員会（長妻藍実行委員長）が主催しました。

「あったらいいな」中高生の居場所づくり **高校生**

交流スペースやダンス・バンド練習用スタジオなどを中高生で運営する「ゆう杉並」（東京杉並区）のことを知った。落ち着いて友達と話したり、勉強や趣味に気軽に利用できる場所をつくってほしい。

学生の就職難について **学生**

就職活動しても採用されず、「どこが悪いのか」と自分を責め、悩んでいる。企業に就職試験結果とその理由を情報公開させる制度があれば、その後の就職活動に活きると思う。

医療機関の人員を増やしてほしい **看護学生**

病院実習で看護師・スタッフ不足による看護援助の不十分さに直面した。ゆとりをもって看護できるよう、有意義な実習が保障されるよう医療機関や施設の人員を増やしてほしい。

待機児解消のための定員超過は保育悪化に **保育士**

待機児解消のために定員超過で詰め込めば、こどもの人権や成長発達には保障されず、保育士もゆとりがなくなる。もっと保育園を増やしてほしい。

病院での相談事業にかかわって **ソーシャルワーカー**

失業等で苦しむ50～60代の人から相談を受けることが多いが、実際は20～30代が心配。安定した収入がなく、国保料や年金保険料を払えない。親元から独立できず、人生の転機（結婚や出産）にも問題が起これると思う。

ひとり暮らしは「はじめての一步」 **労働者**

収入や時間的余裕の無さから「親元から独立すらできない」と焦り、傷つく青年もいる。青年が広島市民として「はじめての一步」を踏み出せるような住宅を保障してほしい。

青年がいきいきと働き暮らすために **労働者**

「青少年」という担当部署があれば、「社会参加」や「自立」という視点からの総合的な政策が打ち出せると思う。若者が困ったときに相談しやすいし、厚生労働省が青年雇用対策の予算を具体的・専門的に活用できるというメリットも考えられる。若者が社会的弱者になろうとしている今、「青少年」の窓口をぜひ検討いただきたい。